

(講座) 臨床薬学  
(氏名) 和田光弘

(研究室) 医療情報解析学  
(職名) 准教授

### 【研究テーマ】

1. 医薬品および健康影響物質の計測とその生体効果の評価に関する研究

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. R. Ikeda, M. Wada, T. Nishigaki, K. Nakashima: Quantification of coumarin derivatives in Noni (*Morinda citrifolia*) and their contribution of quenching effect on reactive oxygen species, *Food Chem.*, **113**, 1169-1172 (2009). [IF: 2.696]
2. S. Ahmed., N. Kishikawa, K. Ohyama, M. Wada, K. Nakashima, N. Kuroda: Selective determination of doxorubicin, doxorubicinol in rat plasma by HPLC with photosensitization reaction followed by chemiluminescence detection, *Talanta*, **78**, 94-100 (2009). [IF: 3.206]
3. J. Zhang, S. Jinnai, R. Ikeda, M. Wada, S. Hayashida, K. Nakashima: A simple HPLC-fluorescence method for quantitation of curcuminoids and its application to turmeric products, *Anal. Sci.*, **25**, 385-388 (2009). [IF: 1.735]
4. S. Ichinose, M. Nakamura, M. Maeda, R. Ikeda, M. Wada, M. Nakazato, Y. Ohba, N. Takamura, T. Maeda, K. Aoyagi, K. Nakashima: A validated HPLC-fluorescence method with a semi-micro column for routine determination of homocysteine, cysteine and cysteamine, and the relation between the thiol derivatives in normal human plasma, *Biomed. Chromatogr.*, **23**, 935-939 (2009). [IF:1.592]
5. T. Honda, M. Wada, K. Nakashima: PCBs and PCDD/DFs in waste oil illegally-dumped and neglected for more than 20 years, *J. Environ. Sci. Health Part A*, **44**, 654-660 (2009). [IF: 1.002]
6. K. Ohyama, N. Kishikawa, K. Matayoshi, L.A. Adutwum, M. Wada, K. Nakashima, N. Kuroda: Sensitive determination of 1- and 2-naphthol in human plasma by HPLC-fluorescence detection with 4-(4,5-diphenyl-1*H*-imidazol-2-yl)benzoyl chloride as a labeling reagent, *J. Sep. Sci.*, **32**, 2218-2222 (2009). [IF:2.746]
7. K. Ohyama, K. Oyamada, N. Kishikawa, M. Arakawa, Y. Ohba, M. Kamino, M. Wada, K. Nakashima, N. Kuroda: Investigation of novel peptide chiral selectors prepared by solid-phase synthesis with a *tert*-butoxycarbonyl amino acid, *Chromatographia*, **70**, 1501-1504 (2009). [IF:1.312]

##### (A-b) 総説

1. Kenichiro Nakashima, Rie Ikeda, Mitsuhiro Wada: Analytical studies on the development of high-performance liquid chromatographic methods with fluorescence or chemiluminescence detections and their practical applications, *Anal. Sci.*, **25**, 21-31 (2009). [IF: 1.735]

## B 邦文

### (B-a) 原著論文

1. 本多 隆、和田光弘、中島憲一郎：長崎県の大气中ポリ塩化ビフェニルの定量とその汚染特性評価、*分析化学*、**58**、211-220 (2009). [IF: 0.399]

### (B-c) 著書

1. 和田光弘：ミシシッピ大学薬学部 Doctor of Pharmacy (Pharm. D.) コースにおける薬学 6 年制教育から学ぶこと、*医薬ジャーナル*、**45**、75-79、医薬ジャーナル社、2009.
2. 中島憲一郎、和田光弘 (分担執筆)：「化学発光と超高感度分析」薬学分析科学の最前線、日本薬学会物理系薬学部会・分析化学担当教員会議 編、pp 40-41、じほう、2009.
3. 中島憲一郎、和田光弘 (分担執筆)：「発光測定を利用する乱用薬物の生体リスク評価」薬学分析科学の最前線、日本薬学会物理系薬学部会・分析化学担当教員会議 編、pp 42-43、じほう、2009.

### (B-d) 紀要

1. 池田理恵、横尾広美、水田夕貴、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎：HPLC-UV 定量法を用いるパクリタキセルの *in vitro* 脳内移行性評価、*日本臨床化学会九州支部会誌*、**19**、5-6 (2009).

## 【学会発表】

### A 国際学会

#### (A-b) 一般講演

1. Mitsuhiro Wada, Rie Ikeda, Kenichiro Nakashima: Chemiluminescent assay for evaluation of antioxidative activity of medical plant. ASPS, 2009.03.16-18, Nagasaki
2. Rie Ikeda, Mitsuhiro Wada, Kenichiro Nakashima: HPLC determination of the functional components in Asian tropical plants. ASPS, 2009.03.16-18, Nagasaki.

### B 国内学会

#### (B-b) 一般講演

1. 池田理恵、横尾広美、水田夕貴、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎：HPLC-UV 定量法を用いるパクリタキセルの *in vitro* 脳内移行性評価、第 19 回日本臨床化学会九州支部総会、福岡 (2009) .
2. 和田光弘、藤本 芳、池田理恵、西垣敏明、中島憲一郎：熱帯植物ブア・メラ中のカロテノイド類の HPLC 定量、第 46 回長崎県総合公衆衛生研究会、長崎 (2009) .
3. 吉良 萌、和田光弘、城戸浩胤、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎：セミマイクロフローインジェクション化学発光法による新規 *in vivo* 抗酸化能評価法の開発、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
4. 西岡雄一、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎：ラット血漿中の sibutramine 等

- 瘦身用薬の HPLC-UV 定量、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
5. 猪狩佳子、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: MDMA の乱用が及ぼす脳内アミンへの影響評価、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
  6. 水田夕貴、横尾広美、池田理恵、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎: BBB キット™を使用するパクリタキセルの脳内移行性評価、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
  7. 濱田光洋、石井 純、土井裕子、濱田典子、濱田哲也、宮崎長一郎、大脇裕一、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: 保険薬局の患者情報に基づく麻黄含有漢方製剤と胃酸分泌抑制薬併用による高血圧治療薬および抗精神薬処方に及ぼす影響に関する調査研究、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
  8. 黒田直敬、大熊瑞穂、岸川直哉、大山 要、和田光弘、中島憲一郎: 蛍光性アリアルヨージドを標識試薬として用いる血漿中アルプレノロールの HPLC-蛍光定量法の開発、日本薬学会第 129 年会、京都 (2009) .
  9. 和田光弘、福永裕子、山形浩介、池田理恵、Suleiman M. Al-Khalil、中島憲一郎: 化学発光フローインジェクション分析法による西アジア原産植物の活性酸素種消去能評価、第 70 回分析化学討論会、和歌山 (2009) .
  10. 池田理恵、藤本 芳、和田光弘、西垣敏明、中島憲一郎: カロテノイド類を指標とした熱帯薬用植物ブア・メラの品質評価、第 70 回分析化学討論会、和歌山 (2009) .
  11. 和田 光弘、黒田 直敬、中島 憲一郎: HPLC-蛍光及び化学発光検出を用いる MDMA 等の乱用薬物の定量法の開発とその応用、第 16 回クロマトグラフィーシンポジウム、平成 21 年 5 月 29 日、長崎 (2009).
  12. 越智裕子、中島帆奈巳、中村心一、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎: カラムスイッチングを用いた HPLC-PO-CL による毛根中の methamphetamine の定量、第 16 回クロマトグラフィーシンポジウム、長崎 (2009) .
  13. 池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: ラット血漿中クルクミノイドの HPLC-FL 定量の開発と体内動態評価への適用、第 16 回クロマトグラフィーシンポジウム、長崎 (2009) .
  14. 中島憲一郎、山原 梢、池田理恵、和田光弘、黒田直敬: 2 種のピペラジン系デザイナードラッグの薬物動態学的相互作用に関する基礎的検討、法中毒学会第 28 年会、石川 (2009) .
  15. 和田光弘、西岡雄一、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎: HPLC-UV 法による瘦身用薬、シブトラミン及びフェンフルラミンの薬物動態学的相互作用に関する基礎的検討、法中毒学会第 28 年会、石川 (2009) .
  16. 猪狩佳子、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎: 脳内アミンの濃度の変動に及ぼす薬物乱用の影響評価、第 49 回日本臨床化学会年次学術集会、長崎 (2009) .
  17. 前田麻由、中島真裕美、池田理恵、和田光弘、中里未央、前田隆浩、高村 昇、青柳 潔、中島憲一郎: 健常人血漿チオール化合物の定量とその解析、第 49 回日本臨床化学会年次学術集会、長崎 (2009) .
  18. 水田夕貴、横尾広美、池田理恵、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎: パクリタキセルの in vitro 脳内移行性及びモルヒネの併用効果に関する基礎的検討、第 49

回日本臨床化学会年次学術集会、長崎（2009）。

19. 阿部圭輔、宮崎長一郎、山内秀子、宮崎理恵、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: 処方箋様式の変更に伴う後発医薬品使用量および使用金額への影響、第 19 回医療薬学会、長崎（2009）。
20. 越智裕子、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎: HPLC-化学発光検出によりラット毛根中のメタンフェタミンの保持挙動評価、第 20 回クロマトグラフィー科学会議、東京（2009）。
21. 和田光弘、池田理恵、黒田直敬、中島憲一郎: 健康食品素材の抗酸化能評価、第 3 回薬学研究フォーラム in 東京、東京（2009）。
22. 田代浩幸、上島泰二、竹内理恵、西村美穂、濱田光洋、池田理恵、大脇裕一、和田光弘、中嶋幹郎、中島憲一郎: 薬剤師が運営する服薬指導支援サイト「POS-World」によるエビデンスに基づく情報提供、第 71 回九州山口薬学大会、別府（2009）。
23. 濱田光洋、石井 純、土井裕子、濱田典子、濱田哲也、宮崎長一郎、大脇裕一、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: 保険薬局の患者情報に基づく非高齢者における Ca 拮抗薬と胃酸分泌抑制薬服用との関連性に関する調査研究、第 71 回九州山口薬学大会、別府（2009）。
24. 猪狩佳子、池田理恵、和田光弘、黒田直敬、中島憲一郎: MDMA 摂取時に起こりうる多剤乱用の脳内アミンに対する影響の評価、第 26 回日本薬学会九州支部大会、福岡（2009）。
25. 水田夕貴、横尾広美、池田理恵、和田光弘、中川慎介、丹羽正美、中島憲一郎: パクリタキセルの *in vitro* 脳移行性と薬物併用の影響に関する評価、第 26 回日本薬学会九州支部大会、福岡（2009）。
26. 濱田光洋、石井 純、土井裕子、濱田典子、濱田哲也、宮崎長一郎、大脇裕一、池田理恵、和田光弘、中島憲一郎: 保険薬局の患者情報に基づく胃酸分泌抑制薬服用患者における CCB の影響に関する調査研究、第 26 回日本薬学会九州支部大会、福岡（2009）。

#### 【研究費取得状況】

1. 平成 20 年度（財）宇部興産学術振興団 学術研究費助成金、「活性酸素種の高感度化学発光計測に基づく生体内レドックス環境の新規解析法の開発と食品性能評価への展開」  
和田光弘（研究代表）
2. 科学研究費 若手 B、平成 21 年、「ナノ FIA システムを用いた新規リアルタイム TRAP 測定法の開発とその応用研究」和田光弘（研究代表）

#### 【学会役員等】

1. 日本分析化学会九州支部 幹事
2. 第 16 回クロマトグラフィーシンポジウム 実行委員
3. 第 49 回日本臨床化学会年次学術集会 実行委員
4. 第 19 回日本医療薬学会年会 実行委員

**【過去の研究業績総計】**

原著論文 (欧文)	77 編	(邦文)	11 編
総説 (欧文)	4 編	(邦文)	1 編
著書 (欧文)	2 編	(邦文)	6 編
紀要 (欧文)	17 編	(邦文)	21 編
特許	0 件		